

## 2015年 鳥取市議会 2月定例会

# 「議員提出議案第6号 農業の発展に必要な生産基盤整備 の拡充を求める意見書」

## 反対討論 日本共産党 鳥取市議団 伊藤いく子

私は、日本共産党市議団を代表して、議員提出議案第6号 農業の発展に必要な生産基盤整備の拡充を求める意見書の提出について、反対の討論をおこないます。

農業就業者の高齢化がすすみ、担い手不足により、農業と農村が崩壊しかねないという深刻な問題があります。そして、食料自給率の向上、国土や環境保全の問題も農村地域にとどまらず、日本社会が真剣に向き合うべき待ったなしの課題となっています。

意見書にあるように、農業生産基盤の整備は欠くことのできない事業であり、日本の農業を支える農家と農地を守るための必要な公共事業は進めなければならないと思います。しかし、農地中間管理機構をフル活用した農地の大区画化の推進は問題があると考えます。

政府は、農地の集積による競争力ある農業の確立を目指すとして、各都道府県に農地中間管理機構を立ち上げましたが、受け手が見込めない農地は預からない、つまり優良農地だけが対象とされていることから、耕作放棄地の解消にはつながりません。また、貸し出し先を地域の担い手も外部企業も同列に公募で決めることから、競争力が勝り、販売力や資金調達力のある農外企業に優良農地を差し出すことになりかねません。今まで、地域の共同で維持されてきた農業に企業論理を持ち込むことは危険です。農地中間管理機構のフル活用というなら、当面受け手の見込めない農地も借り入れ対象にし、受け手が見つかるまで管理や基盤整備をおこなうことや、貸し出し先は地域の担い手を優先するといったものにしないと、農業の発展にはつながらないと考えます。

以上、反対の理由を述べ、討論を終わります。